

アンゴラなどで「黄熱」が流行

2015年12月以降、アフリカ南部アンゴラを中心に黄熱の患者が多数報告されています。

黄熱対策の強化が行われており、流行国に加え、その周辺国においても、入国の際に、**黄熱の予防接種証明書(イエローカード)**の提示を求められる場合があります。
最新の情報を確認してください。

【注意】

黄熱ウイルスを持った蚊がヒトを吸血することで感染します。

渡航者は10日前までに、黄熱の予防接種をすることにより予防が可能です。

【流行国に渡航される方へ】

<渡航中>

その他の蚊媒介感染症(デング熱など)の流行もみられます。

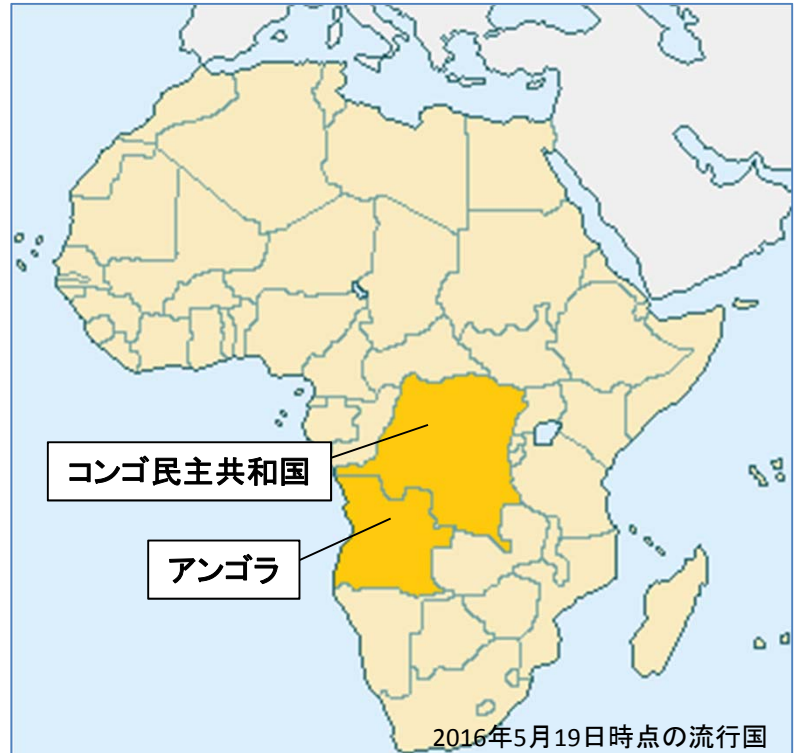
長袖、長ズボンの着用や、定期的な蚊の忌避剤(虫除けスプレー等)の使用などにより、蚊に刺されないように注意してください。

<帰国時>

蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありませんが、渡航中に蚊に刺されたなど、心配なことや発熱等の症状のある方は、検疫所にご相談ください。

【症状】

主として発熱、頭痛、寒気などの症状が見られます。更に一部の患者で重症化し、適切な治療を行わないと死に至る場合があります。



検疫所ホームページ FORTH
<http://www.forth.go.jp>

FORTH 黄熱